



# 2021 年度開催の基礎研修について

## 研修部

昨年度は春先からのコロナの影響により年度当初の研修は中止・延期となりましたが、今年度はリモート研修の拡充や集合研修においても感染防止に努め4月から開始することができました。中でも年度当初に集中実施する新入社員向け基礎研修については東西研修センター合わせて4種類（線路、土木、所内、電力）、合計16回を実施しています。

今回は、受講者が多い線路、所内について取り上げました。

### (1) 基礎研修線路科（14日間）

今年度の基礎研修線路科は5月から8月上旬まで4回開催し130名の受講を予定しています。研修の目的は、アクセスネットワーク全般の技術を形作ってきたメタルケーブルと、高速広帯域ネットワークの要である光ファイバケーブルの両方の技術や設備の基礎知識習得です。また早期に安全意識を植え付ける目的として危険体感やフルハーネス関連の特別教育も組み込んでいます（写真1～4）。

メタルケーブルについてはCCPとPECを題材に架空と地下線路構造全般の知識を養うとともに、工法書に沿って外被剥ぎ取りから心線接続、クロージャの組立てを行うことにより、ケーブルの基本構造・部材特性や外環境下の高品質設備構築のための各部役割や施工技術を学びます。光ファイバケーブルについてもほぼ同様の内容を実施するほかインターネット回線の開通に必要な知識やLANケーブル作成実習などもあ

ります。

新入社員のみなさんにとっては盛りだくさんの実習ですが、初めて見る部材と工具に悩みながらも資料確認や講師への質問を通じて工程を1つひとつ克服することで前向きに取り組んでいます。受講後の感想として「基礎をしっかりと学べた」、「ケーブルに関して詳しく学べた」、「クローージャ組立てができるようになった」等、自身の能力向上に関することや、「資料を読んで理解する力が不足していた」など自己の課題を確認し、次につなげるコメント等が数多くあり、今後のキャリア形成に役立つ研修となったようです。

各受講生には「振り返り日報」を作成することで研修成果・反省を日々振り返っていただきました。この日報は持ち帰りましたので、上司

と共有し、その後のフォローに活用いただくと幸いです。

本研修は集合形式なので消毒検温はもとより、密回避のための2教室分散授業や個人作業を採り入れた実習など感染防止の徹底に取り組みました。研修生はじめ多くの会社講師の協力を得て安全安心な環境下で研修を進めることができていることに感謝します。

### (2) 基礎研修所内科（6日間）

基礎研修所内科は5月上旬を皮切りに東日本研修センターでは3回220名、西日本研修センターにおいても3回60名を実施します。東日本研修センターは受講希望数が例年になく多く、実施期間が長引くことの回避と集中した場合の密回避を念頭にカリキュラムを見直し、リモート形式の



写真1 基礎研修線路科(東日本研修センター)  
メタル4SC組立て

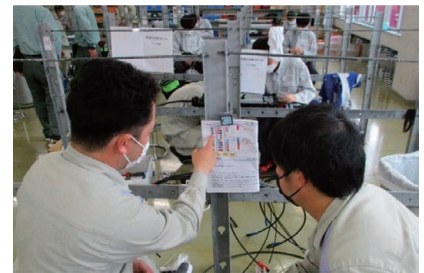


写真3 基礎研修線路科(東日本研修センター)  
光TNクロージャ組立て



写真2 基礎研修線路科(東日本研修センター)  
3号メタル端子函組立て



写真4 基礎研修線路科(東日本研修センター)  
光UOW-Sクロージャ組立て



写真5 基礎研修所内科（東日本研修センタ） リモート講義（講師紹介 & 受講生）



写真6 基礎研修所内科（東日本研修センタ） リモート講義（講義 & テスト採点）

研修としました（写真5・6）。

主な研修内容は、まず情報通信ネットワークを構成する交換機と伝送装置の役割や構成を学びます。携帯世代と言われる二十代の固定電話保有率は5パーセントであり、大部分の受講生には一般電話網の仕組みや歴史観を聞く事は新鮮だったに違いありません。

リアルタイムな話題としては、コロナワクチン接種予約電話が繋がらないとの報道に触れ、交換機の仕組みの中で「ふくそう制御機能」を解説しました。なぜ着信番号を制御する必要があるのか、繋がらないのではなくつなげたい重要な回線があるという点を理解していただきました。IP通信講義の中では、IP技術により通信サービスを統合するNGNを解説しますが、携帯やパソコンの先がどのようにつながっていくのか、その接続構成を学ぶことにより点を結ぶ線が見え、これまでの消費者視点だけでなく、技術者としての視点に立つことができるのだと

感じています。併せて2025年IP網への移行となるPSTNマイグレーションの節目を迎えることにより務めを終えた装置の撤去工程が生じることも付け加えておきました。

研修後半では、通信設備工事業の全体像を解説していきますが、請負契約に始まり、基礎→装機→配線等の工事の流れ、技術者の配置等々、工事完成時の検査体系を教えるころには、もうお腹一杯な雰囲気が感じられました。このタイミングで安全推進期間に入ることもあり「もう一度初心に帰ろう」の安全スローガンを心に刻んでもらい6日間の研修を終えました。

今年度は教材を印刷物送付から各自ダウンロードとし、成果測定、アンケートと合わせてネットワーク経

由を基本として受講者、研修センタ双方の利便性を高めました。また、リモートは教室定員にしばられないため一度に80名ほどの研修を実施することができました。画面越しでは例年感じる新入社員のエネルギーな熱が伝わりにくいのが残りますが、みなさんが集中して受講されていた様子はよく分かりました。これらの成果、反省をふまえ、さらにリモート手法を改善していきます。

基礎研修は、来年度からすべて各社にて実施する予定です。ITEA主催の17社参加型基礎研修は、コロナ下での最終年となり、残念ながらいろいろな意味で“伸び伸び”、“活発”とはいきませんでした。本研修をスタートラインに若手の皆さんが確実に成長していくことを期待しています。健康、安全で精進ください。